

平成28年8月29日

教育課題検討委員会

多度津町教育委員会



諮問文

町内の幼稚園・小学校においては少子・高齢化の波の中で、園児・児童数は減少傾向にあり、減少傾向の度合いには地域的な偏りが見られる。

また、築約40年から50年を経過した校舎・園舎などには、耐震化は完了したものの不具合が随所に散見される。そのため、今後ほぼ同時期に大型改修・改築が必要になる。

さらに、社会の変貌やライフスタイルの変化から家庭・地域と幼稚園・学校とのかかわり方は、大きな転換の時期を迎える。これからの子どもの健やかな成長を促すための幼稚園と小学校像をどのように描くのか、また、そのために人的・物的教育環境をどのように構築していくかが問われており、このようなことが本町教育委員会にとって今後の大きな課題となっている。

こうしたことから、「今後の幼稚園・小学校のあり方」を検討することは、重要な教育課題となっているだけでなく、まちづくりにも大きな影響を及ぼすと考えている。

そのため、今年4月に作成された第6次多度津町総合計画では、政策12「豊かな心を育てる教育の充実」の基本事業2「適正な教育の質及び望ましい教育環境の確保」、「学校規模の適正化に関する協議の実施」を通して「基本方針の策定」を平成28年度～29年度の重点取組としている。

この総合計画を着実に遂行するため、教育課題検討委員会の中で、下記の点に関する基本方針について調査・審議の上、答申願いたい。

記

1. 今後の町内幼稚園・小学校のあるべき姿
2. 今後の町内小学校の適正規模と適正配置
3. 今後の町内幼稚園の適正規模と適正配置